

『ウクライナの教訓 パシフィズムが日本を滅ぼす』

／アゴラ研究所 フェロー

(公財) 国家基本問題研究所 客員研究員 潮 匡人 氏



倶楽部からのご案内

公開講演会開催のご案内

ロシアによるウクライナ侵攻開始から一年余り経過しました。ロシアとウクライナの関係は、中国と我が国との関係に類似する点があり、決して他所事ではないと言われています。特に、台湾問題をはじめ海洋進出を強める中国に対し、我が国はどうか対応すべきか理解しておく必要があります。

このため、航空自衛官としての豊富な勤務経験があり、わが国の防衛に関してご提言されておられるだけでなく、昨年、正論大賞も受賞された織田邦男先生をお迎えし、ご講演をいただきます。

なお、この講演会は会員に限定せず、どなたでも自由に出席できる公開の講演会ですので奮ってご参加下さい。

日時 令和五年八月八日(火)

十三時三十分～十五時十分

場所 (一社) 中央電気倶楽部 五階 大ホール

演題 『台湾有事と日本の課題』

講師 元 航空自衛隊 空将、

麗澤大学 特別教授

織田 邦男 氏

聴講料 無料

申込方法 倶楽部事務局(三宅、更谷、藤川)へ

電話、FAXまたはEメールにて、聴講

希望者の所属団体名、役職名、氏名

をご連絡下さい。

登録させていただきます。当日受付時に

確認させていただきます。

締切 令和五年七月三十一日(月)

ただし、先着二〇〇名様で締め切ります。

TEL 〇六-六三三四五-一六三五(代)

FAX 〇六-六三三四五-一六八七七

Eメール kouenka@chuodenki-club.or.jp

文化探究会見学会のご案内

文化探究会見学会は、奈良県のけいはんな学研都市方面に出かけます。

午前中は平城宮跡内にある「平城宮いざない館」を見学。ガイドスタッフの案内にて、時空を超えて奈良時代の平城京を体感していただきます。

ランチはゆつたりとくつろげる「なら和み館」で和食のランチをお楽しみください。

午後は、「福寿園CHA遊学パーク」で石臼を使ってのお茶挽き体験を楽しんでいただきます。

その後、国立国会図書館関西館に移動し、ガイドスタッフによる説明で施設の概要や機能を学びます。

～今回の倶楽部ならではの～

- ◎平城宮いざない館
ボランティアガイドによる説明があります。
- ◎ランチ
奈良の食材を使った和食ランチをお楽しみください。
- ◎福寿園CHA遊学パーク
石臼でのお茶挽き体験をお楽しみください。
- ◎国立国会図書館関西館
ガイドスタッフの案内で施設の機能などについて学びます。特別に書庫(バックヤード)を見学いただきます。

開催日

令和五年六月二十日(火)【雨天決行】

集合 八時三十分 中央電気倶楽部一階 ロビー

行程 アロフト大阪堂島(旧堂島ホテル)前

：平城宮いざない館(見学・買い物)

：昼食：福寿園CHA遊学パーク(お

茶挽き体験)：国立国会図書館関

西館(見学)：アロフト大阪堂島前と

大阪駅(十七時三十分帰着予定)

定員 二〇名(同伴歓迎)先着順とします。

会費 会員(ご家族含む) 一、〇〇〇円

会員外 一五、〇〇〇円

(会費は当日ご持参下さい。)

【食事の追加の飲み物は個人負担】

申込み 六月十三日(火)までにTELまたは

FAXで事務局(更谷まで)お申し込み

下さい。

TEL 〇六-六三三四五-一六三五(直通)

FAX 〇六-六三三四五-一六八七七

※開催日の前々日以降は、会費の半額をキャンセル料として申し受けます。



大ホール綴帳

目次

6月のスケジュール — 2
 7月・8月の予定
 春の叙勲受賞者 — 4
 写真 — 5
 講演録 — 6~14
 倶楽部だより — 15~17
 同好会だより — 18~19
 倶楽部からのご案内 — 20

創立：大正3年11月
 建物(本館)：昭和5年竣工
 会員数：1,430名

法人指定会員
 1,196名
 個人会員
 234名
 (R5.5.未現在)

六月のスケジュール

一	木	電社会講演会(二一五号室)
二	金	午さん会 講演『藤井聡太とこれからの将棋界』 将棋棋士 九段 (藤井聡太六冠※の大師匠)※五月現在 小林 健二氏 (ご注意下さい)※講演の開始時間が十一時に変更となっております。
三	土	撞球部例会
四	日	青年会例会
五	月	電寿会(二一六号室)
六	火	電寿会(二一六号室)
七	水	電寿会(二一六号室) 絵画部例会 社交ダンス教室(B一〇号室) 十七時
八	木	午さん会 講演『(仮)中国(三国時代)と邪馬台国とのつながり』 魏志倭人伝から見る 元大阪府教育委員会文化財保護課 西川 寿勝氏
九	金	午さん会 講演『(仮)中国(三国時代)と邪馬台国とのつながり』 魏志倭人伝から見る 元大阪府教育委員会文化財保護課 西川 寿勝氏
十	土	囲基部例会 撞球部清交社対抗競技会(於 中央電氣倶楽部)
十一	日	
十二	月	
十三	火	
十四	水	ゴルフ部例会(大阪GC) 社交ダンス教室(B一〇号室) 十七時
十五	木	午さん会 講演『コロナ後のベトナムビジネス状況と ベトナムと日本の今後について』 株式会社VIT Japan 代表取締役 猪谷 太栄氏
十六	金	午さん会 講演『コロナ後のベトナムビジネス状況と ベトナムと日本の今後について』 株式会社VIT Japan 代表取締役 猪谷 太栄氏
十七	土	いなづま句会(二一七号室) 初・中級者向け囲基教室(十時~十二時・二〇五号室) 囲基部指導日
十八	日	
十九	月	
二十	火	文化研究会見学会(平城宮跡、国立国会図書館他) 社交ダンス教室(B一〇号室) 十七時
二十一	水	社交ダンス教室(B一〇号室) 十七時
二十二	木	午さん会 講演『完全閉鎖循環式陸上養殖事業を起点とした 社会課題解決の取り組み』 海幸ゆきのや合同会社 代表職務執行者 秋田 亮氏
二十三	金	午さん会 講演『完全閉鎖循環式陸上養殖事業を起点とした 社会課題解決の取り組み』 海幸ゆきのや合同会社 代表職務執行者 秋田 亮氏
二十四	土	将棋部例会(指導なし)
二十五	日	
二十六	月	
二十七	火	
二十八	水	社交ダンス部例会(B一〇号室) 十七時
二十九	木	社交ダンス部例会(B一〇号室) 十七時
三十	金	午さん会 講演『(仮)中央電氣倶楽部 建物の魅力について (建築史学からみた見所ガイド)』 京都華頂大学 教授 川島 智生氏

※予定変更の場合は改めて連絡いたします。

七月の午さん会講演(予定)

- ◎七月七日(金)
講演『(仮)クロアチアの独立戦争経験から見る
ロシアのウクライナ侵攻』
ロシアのウクライナ侵攻
日本クロアチア交流協会
理事長
山崎 エレナ 氏
- ◎七月十四日(金)
講演『(仮)運輸安全の観点から見た
知床観光船沈没事故』
知床観光船沈没事故
確認された事実と対策
関西大学 社会安全学部
名誉教授
安部 誠治 氏
- ◎七月二十一日(金)
映画鑑賞『黒部の太陽』(十五頁参照)
主演 三船 敏郎
石原裕次郎
監督 熊井 啓
- ◎七月二十八日(金)
※映画は五階ホール大スクリーンで上映(約三時間)
講演『AIの急激な進化が変える世界
待ったなしのAI活用人材育成』
関西学院大学
副学長・情報化推進機構長 已波 弘佳 氏

公開講演会

- ◎八月八日(火)
十三時三十分~十五時十分(五階大ホール)
講演『台湾有事と日本の課題』
元航空自衛隊 空将、
麗澤大学 特別教授
織田 邦男 氏

八月の午さん会講演(予定)

- ◎八月四日(金) 休会
- ◎八月十一日(金) 休館
- ◎八月十八日(金)
ビデオ映画鑑賞会
『樺太一九四五年夏 氷雪の門』(一〇九分)
主演 二木てるみ
会員感謝祭開催
詳細は十六頁参照
- ◎八月二十五日(金) 休会

午さん講演会にご出席のおすすめ

毎週金曜日の午さん講演会は、下記の要領で開催いたしておりますので、多数ご出席ください。
 出席資格：倶楽部会員およびご同伴の方、会員会社の社員の方
 時間：12時~13時40分頃*
 (講演12時40分~13時40分)
 場所：3階大食堂
 食事代：一人会員2,200円(税込)
 非会員2,500円(税込)
 予約：不要
 着席：自由着席
 ※一部開始時刻が異なる日がありますのでご注意下さい。

令和五年度 春の叙勲受章者芳名

叙勲

旭日中綬章

個人会員

元本州四国連絡高速道路株式会社 代表取締役社長

元東洋紡績株式会社 専務取締役

伊藤 周雄 殿

ご受章誠におめでとうございます。
会員一同心からお喜び申し上げます。



「紫陽花と棚田」 個人会員 土田 博 君

撮影者のひと言

昨年吉野へ行く途中、大阪府で唯一の村であり人口が最も少なく、楠木正成の出身地として知られ、役行者が修行したと言われる金剛山や棚田などの自然に囲まれた歴史と観光の千早赤坂村で撮ったものです。みなさんも一度訪れられたらいかがでしょうか。

(写真部員 土田 博)



アゴラ研究所 フェロー
(公財)国家基本問題研究所
客員研究員

潮 匡人 氏

『ウクライナの教訓 パシフィズムが日本を滅ぼす』

潮 匡人 氏 プロフィール

- 略 歴 1960年 青森県生まれ
早稲田大学法学部卒
同大学大学院法学研究科博士前期課程修了
(法学修士)
東京放送(TBS)契約社員を経て、
旧防衛庁・航空自衛隊に入隊
83年 航空教育隊区隊長、第304飛行隊付幹部、
大学院研修、
航空総隊司令部幕僚(総務課兼防衛課)、
長官官房広報課(対外広報)等歴任
94年 3等空佐で退官
クレスト社書籍編集部副編集長
98年 国際研究奨学財団(現東京財団)顧問
99年 社会基盤研究所(旧長銀総研)客員研究員
2000年 聖学院大学政治経済学部専任講師
防衛庁広報誌編集長、帝京大学准教授、
拓殖大学客員教授等を歴任後、現職
- TV出演 ワールドビジネスサテライト(テレビ東京)等
TV・ラジオ番組への出演多数
- 著書等 『誰も知らない憲法9条』(2017年 新潮新書)
『安全保障は感情で動く』(2017年 文春新書)
『ウクライナの教訓』(2022年 扶桑社) 等多数
(尾崎行雄記念財団「穹堂ブックオフサイヤー2022」受賞)
※人気コミック「空母いぶき」(小学館)シリーズに協力

はじめに

本日は「ウクライナの教訓」と題し、ロシアによる侵攻から一年以上が経過したこのタイミングで、我々がそこから何を教訓として受け取るべきなのか、改めて考えていきたいと思えます。まずは一年前の状況から振り返っていくことにします。

誰もが見通しを間違えた

ひとつめは「誰もが見通しを間違

の時点から、わたしは「当然、ロシアはウクライナに侵攻するだろう。」とみていました。

当時、ロシアは「ウクライナ侵攻はロシアを敵視するアメリカの陰謀にすぎない」と言い続けていました。隣国ベラルーシに展開していた部隊についても「演習のため」と言い張っていました。実際には侵攻に足るだけの兵力増強を着々と進め、そして二月二十四日に侵攻に至りました。

侵攻するなら、オリンピックが終わり、パラリンピックが始まるまでのこの期間だろうとわたしはにらんでいました。ウクライナ侵攻よりも前に出版された『新しい地政学』という専門書に、「ロシアの武装集団がクリミアに展開したのはソチ五輪とパラリンピックの中休み期間だった」、ロシアのクリミア侵攻はオリンピックの日程を考慮して計画された」と記述されているのですが、事実、その前も含めれば、ロシアがオリンピック期間を利用して他への侵攻を開始したのは三回目となりません。侵攻を正確に予測することがで

えた」という点です。

象徴的だったのは侵攻が始まった昨年二月に生放送されたNHK総合「日曜討論」という番組です。元外交官、大学教授といった肩書を持つ方々が今後の見通しについて持論を展開しましたが、侵攻を予測した方はひとりもおられなかったどころか、七、八人全員が、これはロシアの単なるブラフ(脅し)であり、侵攻はないという見通しまで立てていました。東京大学で専任講師を務めている小泉悠氏が、ウクライナ隣接部

きたのは、そのことを踏まえ、ならばウクライナ侵攻は北京五輪の「中休み期間」中、二月二十四日が一番あり得ると、素直にそう踏んだからです。

いわゆる台湾有事があるのかなのかについても同じことが言えるのですが、いずれにせよ今回はみんながみんな、見通しを間違っていた。一年前、公共放送の番組のなかで、出席者の誰もが今のような事態にはならないと言っていたということも思い出してください。

次は、いざ侵攻が開始されてから

侵攻が始まった時、識者といわれる人たちのほぼすべてが「ウクライナの首都は十日で陥ちる」と言っていました。ところが、今日、テレビに出ている識者たちはそんな発言はしていません。ここでも識者たちの前科ありと言わざるをえません。加えて言えば、最初は番組やテレビ局としても、たとえばロシア軍に

に侵攻できるだけの兵器、部隊がすでに展開していることを捉えて中立的な見方をしたのが唯一の例外でした。しかし、この番組が放送されるまでの時点において、アメリカの大統領、イギリスの首相、アメリカの国防長官、あるいはイギリスの同じ立場の人物、そしてアメリカのCIA長官、イギリスの諜報機関のトップ等々が相次いで「数週間以内にロシアがウクライナに侵攻する。その具体的なインテリジェンス(情報)を手にした。」と発言しており、そ

は何百両の戦車があり、ウクライナ軍の保有数はそれに及ばないというふうに数を並べ立て、「ロシア軍とウクライナ軍の戦力差は歴然としている。首都も十日で陥ちるだろうし、したがってこの戦争が長引くことはありえない。一瞬でロシアに制圧されて終結する。」という報道をしていました。つまり、一年前は、今現在テレビをはじめとするメディアが報じていることとは正反対のことを、全員が言っていた。このことも、わたしたちは忘れてはなりません。

見通しを間違えた、間違えなかったということでは終わらない重大な問題があります。昨春の東京大学入学式で、来賓として演台に立った女性映画監督が、そこでロシアの正義というものを語りました。この戦争、全然終わらないぞ、どうなっていくのだろうかと、みんながみんな様々な思いを抱いているなかで、日本人の女性監督が日本人の東大新入生を前にロシアの正義を語った。その上で、彼女は日本人の学生たちに向かつて「わたしたちの国がどこかの国を侵攻するかもしれないという

ことにも思いを馳せなければならぬ」とまで言い放つ。とんでもないところに話を広げ、自分の政治的主張を延々と語ったのです。

もちろん、人の数だけ、あるいは国の数だけ正義はあります。しかし、今回のこの事態はロシアが悪いのは誰の目にも明らかで、仮にロシアに正義が1%ほどあったとしても、少なくとも彼女はそういう言い方をしなかった。わが国はこのことを強く指弾すべきでしたし、わたし自身、それがなかったことを今でも悔しく思っています。最高学府の入学式で、それも東京大学で語られるべきことではありません。

また、今回の一件を傍観者のようにみて、どっちもどっちだ、ロシアも悪いが、ウクライナもあそこまで抵抗しなくてもよいといっている人は少なくありません。実際、「ウクライナ政府が徹底抗戦をしているために一般市民を含めた犠牲者が増えている。そのことも忘れてはならない」と弁じる大学の教授もいます。しかし、抵抗してはならないのでしょうか。国際法上で認められている自衛

国会で発言した某議員のような方もいます。その背景には、たとえば自分の家族がロシア人であったり、ロシアから何らかの利権を得ていた、あるいは単にロシアが好きだったり、あるいはいろいろな理由があるのかとは思いますが、そういう人たちがこの一年間、一貫してロシアの代弁者ともいえる発言を続けてきた。必ずしも公正中立の立場で振る舞っている人ばかりではなかったことも、わたしたちがひとつの教訓として学ぶべきことだと思います。

さて、最近では防衛研究所の研究員がテレビ番組などで頻繁にコメントをするようになってきました。ただ、彼らは自衛官ではなく、正式名称は「防衛省教官」であり、わかりやすくいえば、学者、研究者です。しかも、この問題でテレビに出演する方々はロシアの専門家ではあっても軍事の専門家ではない。たとえば軍事についても詳しい高橋杉雄氏などは例外なのですが、それ以外の方は、頻繁にテレビに出ていても、軍事の本質がわかっていないと思ってください。そういう方が、NHK「日曜

権を行使してはいけないのでしょうか。

そういう論、そういう考え方はその教授だけのものではなく、マスメディアを通じて、その様な暴論がこの一年間、語り続けられてきた。このことをまずウクライナの教訓として捉え、ここから匡していかなければ日本は何も変わらないと思っています。

「ロシアにも正義はある」といつてしまえば、ウクライナには何の援助もできなくなります。しかし、さすがに政府にそんな考えはなく、特に岸田首相は虐殺が起きたブチャを実際に視察し、思いを強く新たにされたようにみえます。とはいえ、G7のなかで日本だけが殺傷能力を持つ装備品をウクライナに供与しておらず、自衛隊の保有するものを供与するといったさらに踏み込んだ支援を政府は検討すべきだと思いますが、今のところまったくその声は出ていません。それどころか、ウクライナが抵抗しているから戦争が長引いているのだといっている人たちには、力が強い者が勝つような国際社会を

討論」で「ロシアが撃ち込んだミサイルは極超音速ミサイルで、すごい威力のあるものだ」と言い、テロップもそれに準じたものが流れていました。

わたしは即座に異論を申し上げました。極超音速兵器は、定義上、マッハ五を超えて飛ぶミサイルをいい、それでいえば、弾道ミサイルは全部極超音速になります。北朝鮮にしても、ミサイルを撃つたびに「極超音速兵器を」などとはいっていませんし、日本も「北朝鮮が極超音速兵器を撃つた」と騒ぎはしません。北朝鮮が「極超音速兵器を」と発表して撃っているものはマッハ二〇近い速度のものであったり、マッハ一〇以上で変則軌道するミサイルです。現状の自衛隊、あるいはアメリカ軍の能力では事実上迎撃不可能なものにだけ、北朝鮮は「極超音速」といつているわけです。

ロシアが使用したミサイルは「キンジャール」というものです。それをロシアが「極超音速ミサイルだ」といったからといって、防衛省教官とNHKが真に受けていまだに大騒

肯定するのかと逆に問いたい。これが今日、わたしが皆さんに申し上げたいことの根幹です。

日本のメディアが

見通しを誤った理由

これまでお話をしてきたように見通しを誤ったのには、いくつかの理由があるかと思えます。

ひとつは、論壇のロシアンスクールです。たとえば、英語よりもロシア語が得意だという場合、どうしてもロシアの様々なことにどんどん精通していくでしょうし、地域研究家や学者が対象とするものを深く研究すればするほど、そこにのめり込んでいくことに疑問はありません。前出の小泉悠氏のように、妻がロシア人というケースもあります。

小泉氏のように、公共放送に出演したときには切り分けて、ウクライナ侵攻に関しては、少なくともロシア側が悪いとおっしゃっている場合には、わたしは問題を感じません。しかし、そうではなくて、「プーチンさんはね、人情家なんですよ」と

ぎしているのです。細かな兵器の話はともかく、わたしが申し上げたいのは軍事の本質です。

軍事の本質とは人の命のやり取りをすることであり、命のやり取りで重要なことは、最前線の兵士が実際に銃爪を引くとき、「これは正しい行為だ」と確信を持っているかどうかということなのです。日本のマスメディアはそれが理解できていません。ですから、戦車の車両数で比べたり、単なる武器武具の数量差でロシアとウクライナの結果を推し量ってしまったのです。これは一年前、日本のマスメディアが見通しを間違えた理由にもつながります。

わたしの見立てでいえば、ロシアに正義はなく、ウクライナの正当な防衛戦争です。したがって、ウクライナのほうが高い士気を有しているに決まっています。イヤイヤ駆り出されたロシアの兵士は口くさ働きをしない。見立て通りの結果になります。

たとえば、ベラルーシから国境を超えてウクライナに突入していくと

き、ロシア軍の小隊長に部下が質問をしています。

「これ、演習ですよね？」

演習ではないとわかった瞬間、彼らは「騙された」と思います。

「大丈夫だ、大丈夫だ。ウクライナ兵なんてヘナチョコだから、一瞬でひねりつぶせる。ついてこい。」

「あいつらは戦う気などない。我々を、むしろ歓迎しているぞ。」

「ナチス化したウクライナから正義を取り戻すための戦いだ。」

そんなことをいわれながら、ロシア軍はウクライナに侵攻します。ところが、聞いていた話とはまったく違い、ウクライナは死物狂いで抵抗します。

「小隊長、話が違いますよ！」

やがて部下たちは、こんな小隊長についていけば死ぬだけだと思い、勝手な判断で逃げ出し、投降を始めた。ウクライナ側の戦術的、軍事的な理由かもしれないが、投降してみたら、ウクライナ軍は自分たちをものすごく丁寧に扱ってくれる。場合によってはお金までくれる。

わたしが某国情報として当初聞いた話によれば、ウクライナ側がダムを破壊して決壊させ、流域を沼地化して戦車の進行スピードを遅らせる。そうして先頭の戦車が停まれば、続く戦車隊も列をなして停止していく。そこへ上空から対戦車ミサイルなどを撃ち込み、戦車部隊を壊滅させる。結果、ウクライナの首都を十日で陥とすどころか、ロシア軍はあっさり逃げ帰っていくに違いなという話でした。これは、わたしが当初に見立てていたとおりの内容で、それは今日まで変わっていません。ただし、戦闘状態が一年以上続いています。ウクライナ軍のなかにも、そろそろ厭戦気分が広がっていてもおかしくはない。実際、ウクライナ国内で嫌がる青年を両脇から抱え、強制的に徴兵していく映像がSNSで拡散されています。ウクライナ側にも士気の問題が出てくるでしょうから、今後の戦局の見通しはなかなか難しくなってきたと思います。

ものすごい性能の最新鋭戦闘機があっても、それを操縦できる者がいなければ戦力はゼロです。もちろん、その反対も起こります。ピカイチの技量を有するパイロットがいても、出撃から再出撃までのターンアラウンドに時間がかかりすぎれば、その時点で戦力はゼロです。

だからこそ、「制空権」などという、あたかも地面を制圧するかのよような感覚で話してはならない。そんな感覚で第何世代の戦闘機を何機保有している云々などと発想するから、ロシアが一瞬で勝つという誤解を招き込んでしまうのです。圧倒的な軍事力を有していたとしても、完全に空を制することはできないのです。現にロシアは制空権をとれていないどころか航空優勢すらもとれていない。普通の国なら、こんなこと子どもでも知っています。しかしこの日本は、平和教育は行なっていない、わたしが今話してきたような事例を学校で教えることはない。あるとすれば、防衛大学校だけです。東京大学でも安全保障論を教わることはあっても、軍事学を教わることは

た話によれば、ウクライナ側がダムを破壊して決壊させ、流域を沼地化して戦車の進行スピードを遅らせる。そうして先頭の戦車が停まれば、続く戦車隊も列をなして停止していく。そこへ上空から対戦車ミサイルなどを撃ち込み、戦車部隊を壊滅させる。結果、ウクライナの首都を十日で陥とすどころか、ロシア軍はあっさり逃げ帰っていくに違いなという話でした。これは、わたしが当初に見立てていたとおりの内容で、それは今日まで変わっていません。ただし、戦闘状態が一年以上続いています。ウクライナ軍のなかにも、そろそろ厭戦気分が広がっていてもおかしくはない。実際、ウクライナ国内で嫌がる青年を両脇から抱え、強制的に徴兵していく映像がSNSで拡散されています。ウクライナ側にも士気の問題が出てくるでしょうから、今後の戦局の見通しはなかなか難しくなってきたと思います。

ない。文部科学省をはじめ「軍事学」という名称を忌避しているために、日本国民は軍事を学ぶ機会を保障されていないのです。

ですから、たとえば湾岸戦争のときも、今わたしが話してきたようなことが起きてしまつて、ギリギリまで、みんなが「戦争にはならない」といつていました。同じことを昨年のウクライナ問題でも繰り返してしまつたわけです。

日本の安全保障に与えた教訓

ウクライナ問題が日本の安全保障に与えた教訓はいくつもあります。ひとつは「安全保障は感情で動く」ということです。

北朝鮮は過去から現在にいたるまで、弾道ミサイルを撃つたびに、その具体的な性能について発表してきました。最近NHKでも北朝鮮の発表するものについていろいろと言及をするようになっていますが、例外なく北朝鮮の戦力、能力を過小評価しています。

例えば二〇一七年、北朝鮮がIC

航空戦力は掛け算の世界

専門的な話になりますが、航空戦力の話をします。出撃してミサイルを撃ち尽くせば、基地に戻つてミサイルを再搭載し、燃料を補給して再び出撃する。これがほとんどの空軍の姿であり、そのための訓練を各国の空軍は日頃から行なっているのです。パイロットの技量向上訓練もさることながら、ミサイルをすべて撃ち尽くしてから再びの出撃に要する時間が一分一秒でも短いほうが強い空軍になる。戦闘機は飛ばないと戦力になりません。

一般的に陸上戦力は足し算の世界だといわれます。歩兵が何人減つた、だから何人の補充をしようという計算が少なくとも机上では成り立ちます。空の世界は違います。航空戦力は掛け算の世界です。ゼロを掛ければ、答えは必ずゼロになる。航空機が地上にある限り、戦力はゼロです。飛び続けていたとしても、ほとんどの戦闘機は最大でも八発のミサイルしか搭載できず、すべて撃ち尽くせば、戦力はゼロです。

BMを撃つたとき、日本国民を安心させようというコメントなのかもしれませんが、ICBMである可能性は否定できないが、そこに核弾頭を積める能力があるかといえば疑問である。「核弾頭積載の能力を持つていたとしても、北朝鮮はまだ大気圏に再突入させる技術を持っていないはずだ。」等々、この二十年間、ことごとく読みを間違えてきましたし、今もそれは同じです。

二〇一七年一月一日、金正恩が「年内にICBMを完成させる」と発表したときも、日本の防衛省もアメリカ政府も北朝鮮の能力を過小評価しました。この発表を受けた当時のトランプ大統領は、ツイッターに「It won't happen（そんなことは起こり得ない）」と書き込みましたが、わたしは同年、文春新書から出版した『安全保障は感情で動く』という北朝鮮問題に言及した本のなかで、「本年中に北朝鮮はICBMを完成させる」と書き入れました。金正恩の肩を持つているわけではないかもしれませんが、彼らはできもしないこ

とをいったりしないし、それまでに積み重ねてきた技術、能力をみれば、当然ICBMを完成させるだけの能力はある。実際、その通りになりました。

いずれにせよ、北朝鮮に高度な軍事的能力があるがなからうが、あまり関係なく、金正恩がどういふふうに認識し、どういう考えを持っているのがポイントです。

普通に考えて、金正恩は間違いなく、多少の欠陥があっても「わが軍は完璧な能力を有している」と思っているに違いありません。したがって、「我々の核が怖くてアメリカは手出しできない」と高をくくる。高をくくれば、韓国に攻め入ろうという強い誘惑に駆られても何らの不思議はないとわたしは思っています。北朝鮮に限らずどの国でもですが、その国がどう思っているのかということが圧倒的に重要なのです。

結局、歴史をさかのぼるまでもなく、第一次世界大戦から考えてみても、基本的には何かの勘違いであったり、誰かの思い込みであったり、あいつは許せないという感情であったり、

展は保証されることが改めて明らかになった」という部分です。
もうひとつは、「わが国は戦後最も厳しく複雑な安全保障環境に直面している。ロシアによるウクライナ侵攻により、国際秩序を形成するルールの根幹がいとも簡単に破られた。同様の深刻な事態が、将来、インド太平洋地域、とりわけ東アジアにおいて発生する可能性は排除されない」という部分です。「わが国は戦後最も厳しく、複雑な安全保障環境に直面している」の部分は、今回初めて出てきた表現です。「とりわけ東アジアにおいて発生する可能性は排除されない」とありますが、排除されないどころか「可能性は高い」としても問題はないと、わたしは思っています。
最新版の国家安全保障戦略では、ロシアのことを「国連常任理事国」と記しています。これは、ロシアがウクライナにしたことを、中国もどこかの国に、つまりは東アジアの国に対して行なう可能性は排除されないということを意味しています。このことこそ、ウクライナの教訓とし

たりで人間は戦争をするのです。もちろん、いま流行りの地政学であったり、客観的な要素も無視はできない重要なものです。しかし、客観的に物事や現象をとらえようとする人たちは、主観的な要素というものをあまりに過小評価してきたと、わたしは強く思っています。特に今回のウクライナ問題についていえば、少なくともこの一年間、ロシア側の戦意はほとんどなく、ウクライナ側は土気規律ともに高かったという理由によって、多くの人の見通しが変わっていたという展開になったのですから。

次の教訓は「日米同盟の非代替性」です。日米同盟は他の何かによって代替されることはありません。軍事に絞って申し上げれば、今回の事態になった理由は、ウクライナがNATO（北大西洋条約機構）加盟国ではなく、アメリカの同盟国でもなかったという点が大きなファクターを占めていると考えています。したがって、ウクライナのような事態が日本で直ちに起きることは、基本的にはありません。

て我々が学ぶべき一番重要なポイントだと思えます。

（反戦平和主義（パシフィズム）が日本を滅ぼす）
ウクライナ問題での一番大きな教訓は、パシフィズムが国を滅ぼしてしまうということだ。

今回でも相変わらず多くの方々から「ロシアが悪いのはわかる。わかるけれども、どっちもどっちだ」という見方をしています。それは、絶対に戦争よりも平和がよいと考えているからです。しかしながら、平和とは、現状の秩序を維持することに他なりません。現状の秩序とは、前の戦争で勝った側が形成したもので、つまり勝ち組にとって都合のよい秩序を「平和」と呼んでいるだけなのです。

たとえば、ウクライナが今からクリミア半島を取り返そうとしたならば、それは平和を破る行為なのでしょうか。それを戦争といえは戦争になるのですが、「二〇一四年以来、長く続いてきたロシアによる平和を

ウクライナと日本が大きく違うのは、日本はアメリカの同盟国であるということです。ロシアであれ中国であれ、または北朝鮮であれ、これは無視できない重要なポイントになります。次の違いは、日本は島国であるということです。ウクライナが陸続きのロシアから侵攻されたようなことは軍事的、物理的に不可能です。つまり、ウクライナの一件でわが国に軍事的な教訓を与えるものがあるとするれば、直接的には「だからこそ日米同盟は維持強化すべき」という当たり前の結論に帰着する。わたしはそう考えています。

その次の教訓は、最新版の国家安全保障戦略に見ることができません。岸田内閣は様々な批判を受けながらも、最新版の国家安全保障戦略のなかに反撃能力を含めたものを盛り込みました。マスコミは反撃能力は憲法違反だ、専守防衛ではないと論じていますが、しっかりと読み取ってほしいのは、ひとつは「国際社会は時代を画する変化に直面している。グローバル化と相互依存のみによって国際社会の平和と発

打ち砕いたウクライナの暴挙」ということでもできたりします。

わが国周辺でのわかりやすい例は台湾です。台湾が独立宣言をし、実際にその方向へと一歩、二歩三歩と踏み出したときにはどうなるか、想像がつくはずで、「戦争よりも平和のほうがよいに決まっている」とするならば、台湾も独立宣言などしてはならないこととなります。

やはり、そうではあつてはなりません。戦争と平和、あるいはそれらを超えたもの、たとえば正義といったより高次元な価値に奉仕するために軍隊は存在をしていると、わたしは思っています。でなければ、現場で最前線にいる兵士は銃爪を引くことはできません。

かつて自衛隊が南スーダンに派遣されたとき、自衛隊は何の手出しもできず、基地のなかに引きこもってしまいました。当時、おそらくはわたしが自衛隊の南スーダン派遣に反対していたと思います。さまざまな理由はありましたが、何よりもわたしがおかしいと思ったのは、南スーダンでは政府軍と反政府軍が諍

倶楽部だより

図書だより

◎寄贈図書

「画文集 花の譜」「画文集 続花の譜」
「画集 草木譜」

清野 蒼花 著

「風のように 木津谷文吾スケッチ画集」

木津谷 文吾 著

寄贈者 大田垣 文雄 氏

(関西電気関連学会 理事長)

「JR西日本三十年誌」

寄贈者 村田 貞博 氏(個人会員)

●●●● 新入会員のご紹介 (五月理事会承認・六月入会)

【個人会員】

喜田 純 章 氏(昭和五十五年生まれ)

現職 弁護士(蒼生法律事務所)

(紹介者) 疋田 孝 純 君

斉藤 明 博 氏(昭和二十九年生まれ)

現職 全日本コンサルタント株式会社

技師長 (紹介者) 疋田 孝 純 君

田村 雅 博 氏(昭和二十八年生まれ)

現職 大阪府立長尾高校

日本史担当 非常勤講師

(紹介者) 西 牧 隆 利 君

疋田 孝 純 君

●●●● 午さん会で映画 「黒部の太陽」上映決定

今年、黒部ダム竣工六〇周年を迎えます。このことを記念し、当倶楽部の午さん会で、映画「黒部の太陽」を左記日程で上映いたします。ご紹介するまでも無く、この映画は往年の大スター三船敏郎氏、石原裕次郎氏他による感動の大作でございます。

なお、上映は石原裕次郎氏のご希望に沿い、大スクリーンで迫力を感じていただけるよう、五階ホール(約百名程度鑑賞可能)にて行う予定です。他の午さん会と同様、映画のみ鑑賞を希望される会員および同伴の方々も参加いただけます。

このため、会員様はもとより、会員様のご友人様にも多数お誘い合わせの上、奮ってご参加いただきますよう、何卒、よろしくお願ひいたします。

開催日	七月二十一日(金) 午さん会	
ランチ	十二時〜十三時三十五分頃	三階 大食堂
映画	十三時四十分〜十六時頃 (途中休憩十分間程度)	五階 大ホール

●●●● 会員数の状況と 会員数維持・増員のお願い

会員数は、五月末現在、一、四二〇名となっております。

会員の皆様から頂戴いたします会費が会員相互の交流と親睦を第一の目的とする当倶楽部の事業を支える一番大きな柱となっております。財政基盤の安定化並びに倶楽部の活性化のため、会員増強に努めているところです。

会員の皆様には、ご紹介お願いいたします。また、当月下旬には順次、住所等のご変更と、法人会員の皆様には指定会員の変更につきまして、ご確認の書類をお送りさせていただきますので、ご協力をよろしくお願いいたします。

法人会員の皆様には、厳しい経済環境ではありますが、指定会員の変更の際には是非とも現会員数を維持していただき、増員につきましても何卒ご検討いただきますようお願いいたします。

講演録 ウクライナの教訓 パシフィズムが日本を滅ぼす

いを起こしているという点でした。政府軍が善で、反政府軍が悪ならば派遣してもよいでしょう。しかし、そうではなく、どちらが善でどちらが悪なのか、よくわからないような争いのなかに自衛隊が放り込まれ、実際に目の前で銃弾が飛び交っている。一体どちらの側につけばよいのか、判断などつくはずがありませんし、どちらに銃爪を引くにしても、相当なためらいが出てきます。実際、彼らはためらい、一発も撃たずに帰ってきました。

日本でウクライナと同じようなことは起きないでしょう。しかしあえて理論的に、象徴的に申し上げると

CLUB GRAF くらぶ・ぐらふ

◎午さん会(2月3日)

「一人ひとりの教育的ニーズも子も孫も、そしてあなた自身も」

(二財)日本教育支援機構 主席研究員
(株)イングラムジャパン 代表取締役
笹田 能美 氏



すれば、似たような事態、たとえば中国と台湾の武力紛争に面したとき、そしてたとえば、「あれは中国というひとつの国のなかで起きている争いで、日本がそこへ出ていくことはそもそもしておかしいのだ。」「自衛隊員がそこへ出ていくのは、どちらを助けるためでしょうか。本当に台湾が正義で、中国が悪なのか。」と識者がテレビ番組でコメントしたり、「人の命を奪うことになるから憲法九条に違反している。」等々とマスコミが騒いだりしたとき、自衛隊員の家庭でもそれを受けて、「お父さん、本当に派遣されるの? 銃を撃たないでね、お父さん。人殺しって

◎午さん会(2月10日)

『手数料が世界経済を決定する
コミッションキャピタリズムの
形成から現代まで』

京都産業大学 経済学部
教授 玉木 俊明 氏



いわれてしまうじゃないの」という会話が交わされるようになるでしょう。そんな状態で、果たして自衛隊が戦うことができるのでしょうか。自衛隊において最も重要なのは「君たちは正しいことをしている」と、彼らに確信を持たせる使命教育です。これが今の自衛隊に最も欠けているものであると、わたしはこの一年間のウクライナ問題を思いながら考えているところです。

◎午さん会(2月17日)

『緊迫する台湾情勢と
米中対立の行方』

東京外国語大学大学院
総合国際学研究院
教授 小笠原 欣幸 氏



(令和五年四月七日)

講演抄録文責在(記者)

◎午さん会(2月24日)

『岸田政権と
統一地方選挙の行方』

NHK放送文化研究所
主幹 島田 敏男 氏



●●●●● 新規会員のご紹介に
ご協力をお願いいたします!!

●●●●● 会員の皆様には、会員増強にご協力いただきありがとうございます。

●●●●● 当倶楽部の発展のためには、会員企業の皆様そして個人会員の皆様の新入会員の紹介が何よりも大切です。

●●●●● 「明るく、親しみのある倶楽部」として会員皆様に倶楽部ライフを楽しんでいただき、大切な交流の場として活用いただけますよう事務局一同頑張つてまいりますので、何卒お力添えのほどよろしくお願いいたします。

●●●●● ご入会希望の方には、事務局がいつでも、説明いたしますので、ご紹介方よろしくお願いたします。

(会費・入会金)

区分	会員区分	会費
入会金	1社(団体)	7万円
	新規入会	3万円
	個人会員	2~5年未満 1万円 5~10年未満 5千円 10年以上 無料
月額会費 会員一名	指定会員	一律 5,000円
	個人会員	毎月払い 4,300円 半年払い 4,050円 年一括払い 3,800円

●●●●● 電気施設関係見学会に
参加して

個人会員 山田 拓幸

●●●●● 開催日の四月二十六日は、午前中は生憎の雨模様でしたが、午後からは雨も上がり、いずれの施設も期待を上回る興味深い内容でした。

●●●●● 関西電力送配電株式会社 中央給電指令所
電力の流れを監視し、制御する

●●●●● 最初に訪れたのは、中央電気倶楽部からは大川を挟んだ南側にある関電ビルディングです。まずは予想外の厳重なセキュリティが驚きでした。ビルの何階にあるのかは保安上の機密とのこと、耐震の関係でビルのほぼ真ん中の階に位置することでした。給電指令所は警察や消防の指令所とは全く違って、出動要請の電話などはかかってくるません。二十四時間勤務の極めて静かで冷静な雰囲気です。

●●●●● ご承知の通り、電気は貯蔵ができません。また、電気が必要な時に短時間で発電を開始できるものではなく、需要と供給との間にタイムラグが生じます。電力の供給にはこの二点の課題を克服して、電力を効率よく発電し、安定供給を維持する事の難しさが、その中枢機能を果たすのが、この中央給電指令所です。需要予想に基づく発電量の決定と各発電所への発電指示及び送電ネットワークを駆使しての電力の融通などの普段は知り得ない業務を見学したことは想像を上回る興味深い時間でした。

●●●●● 会議、セミナー、ミニコンサート等に
大ホール・会議室のご利用を!!

●●●●● 一〇〇年以上の歴史ある社交倶楽部、その会館の中のくつろぎに満ち、ゆつたりとした空間で、大切な会議やセミナー、講演会、展示会、ご商談、打合せに。また同窓会・OB会等の旧友との再会の場としてもぜひご利用ください。五階大ホールにはグランドピアノを備付けており、ミニコンサート会場として、そして、大スクリーンでシアター感覚のご利用とイベントにも多岐にわたるご利用頂けます。

●●●●● 当倶楽部は、交通の便も良く、低料金で十人程度からご利用が可能な大小二十二三室の会議室とお稽古事にお使い頂けます和室三室、そして椅子席三三〇席の大ホールまでございます。



(五階ホールのグランドピアノ)
ご利用後の会議室の消毒の実施も継続致しております。

●●●●● フレンチレストラン カルトブランシュ
特別なフレンチのプチコース

●●●●● 白バラのシャンデリアがお出迎え 御堂筋の西側歩道に面した地下に降りるフレンチレストラン。ワインも料理も最高で雰囲気もよく、場所もよいのでまた訪れたいお店です。

●●●●● 株式会社ハイドロエッジ 本社工場
脱炭素社会の切り札として期待される

●●●●● 堺の臨海コンビナートにある製造プラントでした。装置産業であり、原材料のLNG(液化天然ガス)もパイプラインにより製造プロセスに投入され、加工も化学的に行われるので、作業員も少なく静かな工場でした。



(株)ハイドロエッジ水素製造プラントにて

●●●●● 堺伝匠館

●●●●● 世界を席巻した匠の技の打ち刃物と 千利休や駿河屋の与謝野晶子に由来する和菓子実用品でありながら、匠の技で実に美しく仕上げられた刃物に見惚れ、料理人でなくても所持したくなるような芸術的な品々は十分に目の保養となりました。

●●●●● 「会員感謝祭」のご案内

●●●●● 昨年ご好評をいただきました会員感謝祭を次の通りご案内いたします。皆様方にゆつたりと音楽をご鑑賞いただき、美味しいお食事をお楽しみいただけます。お誘いあわせの上、是非ご参加ください。

●●●●● 日時 令和五年八月二十五日(金) 十七時半~二十時
●●●●● 場所 中央電気倶楽部五階大ホール
●●●●● 出演者 山本純子さん(フルート)
今西彩菜さん(ヴァイオリン)
宮國香葉さん(ピアノ)
●●●●● 参加費 八千円(会員)、二万円(非会員) 六十名(先着順)

●●●●● ※後日請求書をお送り致しますのでお支払い願います。
●●●●● ※お申込みにつきましては、FAX又はEメールにてお願いいたします。(氏名・年齢・連絡先を明記ください)なお開催日三日前以降のキャンセルは食事代実費をご負担願います。
●●●●● お問い合わせは、倶楽部事務局(総務)まで。
TEL 〇六-六三三三-五二五六
FAX 〇六-六三三三-五二六七
Eメール kanshasai@chudenki-club.or.jp

●●●●● 会員感謝祭開催のご案内

●●●●● 青年に引き継ぎ会員感謝祭を開催いたします。今年はクラシックなどの音楽を鑑賞いただきながら、お食事をお楽しみ頂けます。友人をお誘いあわせの上、是非ご参加下さい。

●●●●● 日時 令和五年八月25日(金)17:30~20:00分
●●●●● 場所 中央電気倶楽部 5階 大ホール
●●●●● ①17:30~18:00 第1部鑑賞
●●●●● ②18:00~19:00 お食事
●●●●● ③19:00~19:45 第2部鑑賞
●●●●● ◆出演者 山本純子さん(フルート)、今西彩菜さん(ヴァイオリン) 宮國香葉さん(ピアノ)

●●●●● <山本 純子 さん> <今西 彩菜 さん> <宮國 香葉 さん>
●●●●● ◆定員 60名(先着順)
●●●●● ◆参加費 八千円(会員)、二万円(非会員) 六十名(先着順)
●●●●● ◆申込方法 下記方法にて申込み下さい。なお、開催日3日前以降のキャンセルについては、食事代実費をご負担願います。
●●●●● 申込日については、氏名・年齢・連絡先を明記し、Eメール又は FAXにて毎月10日(金)までお申込み下さい。
●●●●● Eメール:kanshasai@chudenki-club.or.jp
●●●●● FAX 06-6345-6877
●●●●● ※FAXでの申込みは必ず事務局の必要項目を記載し、お申込み下さい。お問い合わせは倶楽部事務局 TEL 06-6345-6356(総務)まで。

●●●●● 食堂よりのお知らせ

●●●●● 期間限定メニュー(六月から) VOL.3
「梅の冷製カツペリーニ牛しゃぶのせ」

●●●●● 三階大食堂にて期間限定メニューのお知らせです。(初)夏を感じる冷製パスタ「梅の冷製カツペリーニ牛しゃぶのせ」をご提供させていただきます。

●●●●● 牛肉の甘みと梅の酸味がベストマッチ、色目も華やかで、とても食べやすい冷製の細麺パスタ(カツペリーニ)です。是非ご賞味ください。



サラダ・パン・コーヒー付 ¥2,000(税込)

●●●●● ※三階大食堂にてご予約承ります。二日前までにご予約願います。食堂の混雑状況により、ご予約できない場合がございます。

◎絵画部(水彩画)教室

五月度(十七日・水曜日)は、中の島緑道での写生会でした。

次回は六月七日(水)「静物：花(薔薇)」です。

◎囲碁部 例会(五月十三日)

成績

三勝 八段 山田 進君
二勝 五段 井垣 文男君

(参加者 六名)

◎将棋部 例会(四月二十二日)

成績

三勝 五段 楠本 光秀君
二勝 六段 井上 清志君

(参加者 六名)

(次回例会は六月二十四日(土)指導なし)

◎ゴルフ部第五六一回 例会

(四月十八日 くもり 於伏尾GC)

成績

優勝 石田 大君
二位 辻田 知史君
三位 石田 貴志君

・優勝コメント

天候にも運にも恵まれ、例会で優勝することが出来ました。同伴競技者の宮田雅之様、鈴木克彦様、中野米蔵様ありがとうございました。

◎ゴルフ部第五六二回 例会

(五月十日 晴れ 於琵琶湖CC)

成績

優勝 辻田 知史君
二位 石田 大君
三位 井上 清志君

◎令和四年チャンピオンシップ

優勝

辻田 知史君

※辻田 知史氏の優勝コメントは紙面の都合により次月号に掲載させていただきます。

(次回例会は、六月十四日(水)

第五六三回例会 大阪GC)

◎撞球部 例会(五月十三日)

成績

優勝 奥谷安規子 さん
二位 大竹 一夫君
三位 石塚 正和君
四位 磯田 邦夫君
五位 馬場 秀行君

(参加者 十三名)

・優勝コメント

やつと、マスクを外して試合に臨んだ解放感からか？優勝することができました。

偏に、撞球部の皆様方のご支援と指導のおかげと感謝いたしております。

特に、春季大会で優勝でき、歴史と伝統ある中央電気倶楽部撞球部の優勝者ネームプレートに名前を刻んで頂く事が出来、嬉しさはひとしおです。

これからも精進し、一步一步ステップアップしていきたいと思っております。

引き続き変わらぬ、ご厚誼を賜りますようお願い申し上げます。

(次回例会は六月三日(土))

◎俳句部

第八百四十九回 いなづま句会

俳誌「かつらぎ」主宰 森田純一郎先生 指導
令和五年四月十五日

兼題 当季雑詠五句

選者吟

よなぼこり浴びつ、一機着陸す
春雨にクロサイの背の黒々と
春雨や見る吾も犀も孤高なる
ハルカスの霞みキリンは外に出でず
春の湖透かしてメタセコイアかな

いなづま句抄

- 花海棠散りしと尼の詫びらるる 富山 勝幸
- ゆうらりと郭言葉や春の宵 難波 正行
- 滋賀晴れて大阪は濃きよなぐもり 渡邊 建彦
- 筍飯まつ醤油の香花椒の香 東代 舞
- エジソンの碑に日の本の桜かな 広田 祝世
- 一步二歩三歩と春の行きにけり 出店智恵呼
- 高枝に粗に編みたるは鴉の巢 奥村 恵子
- 浮御堂湖中句碑守る芦の角 友岡 淑子
- どこまでも摘草の道統きけり 前野美枝子
- 街はいま春着の娘らが闊歩せり 野尻 弘輔
- 屋根赤くきらめく街の薄暑かな 木下 貴友
- 花びらは川に模様を作りゆく 留岡 寛

(○印選者選)

(注)

よなぼこり(よなぼこり)・・・季語、霾(つちふる)の子季語。中国北部の黄土地帯で舞い上がった黄砂のこと、ほかに「黄沙」「よなぐもり」などがある。(季語)
よなぐもり(よなぐもり)・・・季語、霾(つちふる)の子季語で、「よな」とは火山灰の意味がある。(季語)
エジソンの碑(えじそんのひ)・・・八幡市男山の石清水八幡宮に、エジソンが電灯のフィラメントに男山の竹を用いたという記念碑。
湖中句碑(こちゅうくひ)・・・琵琶湖の堅田の蘆茂湖中に浮御堂があり、その北側に高浜虚子の水中句碑「湖もこの辺にして鳥渡る」がある。
芦の角(あしのつの)・・・水辺に生える芦の角状の新芽のこと。(季語)

他倶楽部案内

●●●● 清交社の午さん講演会の案内

会場：ANAクラウンプラザホテル大阪 三階飛鳥の間他

時間：十一月三十分～十三時三十分

六月六日(火)

講題『歌の翼が繋ぐもの』

ソプラノ歌手 鮫島 有美子 さん

六月十三日(火)

講題『温泉百名山―選定登山の軌跡―』

温泉紀行ライター 飯出 敏夫 氏

六月二十日(火)

講題『未定』

スポーツコメンテーター 奥野 史子 さん

六月二十七日(火)

講題『未定』

大阪公立大学大学院 医学研究科麻酔科学教授 森 隆 氏

※状況により中止になる場合があります。

◆出席ご希望の方は、当倶楽部事務局

(三瓶)に二日前までにお申し込み下さい。

◆会費/三,〇〇〇円(昼食代消費税込後日精算)

前日の午後五時以降は、キャンセル料が発生します。

☆クルーズ(十月末まで)